

Title	雲夢秦簡研究關係資料目錄
Author(s)	湯淺, 邦弘
Citation	中国研究集刊. 1984, 1, p. 22-37
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/61150
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

雲夢秦簡研究関係資料目録

湯 浅 邦 弘

雲夢秦簡が発見された翌一九七六年、『文物』紙上には次々とその発掘状況が報告され、出土竹簡の写真並びに积文が「雲夢秦簡积文」として連載された。湖北省雲夢県睡虎地に於て発掘されたこの一千余枚の竹簡は、やがてその大半が、戦国末から秦に至る法律関係文書であることが判明する。

中国では、直ちに『文物』『考古』を初め、多くの学術雑誌にその研究成果が発表される。ところが、時あたかも中国は、法家路線を高く評価する四人組支配の時代であった。そこでこれらの研究も出土資料を利用した法家路線の絶賛に努めるものとなった。その後も中国は、天安門事件（一九七六年四月五日）、毛沢東死去（同九月九日）、四人組逮捕（同十月六日）という政変に揺れ動く。そこで以後の論文も、この激動を反映した政治性の濃い論調とならざるを得なかった。

しかし、一九七七年、睡虎地秦墓竹簡整理小組による『睡虎

地秦墓竹簡』が公表され、翌七八年には同名の普及版が出版される。积文・語积・現代中国語訳を付けたこのテキストは、『文物』に連載されていた不鮮明な写真版に代わり、雲夢秦簡研究の基本的テキストとして登場したのであった。ここに雲夢秦簡研究は、本格的な研究の段階に入ったと言える。発表される論文の数も増え、その内容も実証的なものが多くなった。そして、一九八一年、睡虎地秦墓竹簡整理小組の研究者を中心とする初の本格的論文集『雲夢秦簡研究』が発表され、また、従来未公表であった「日書」の写真と积文を掲載した『雲夢睡虎地秦墓』も出版された。更に八二年には、その「日書」についての総合的研究『雲夢秦簡日書研究』が登場したのである。

一方、わが国においても、雲夢秦簡の出土は大いに注目され、『文物』掲載の写真版を手掛りに七七年頃からその概論が発表され始めた。しかし、本格的研究の開始は、やはり七八年版

『睡虎地秦墓竹簡』の発表を待たねばならなかった。このテキストを基に、雲夢秦簡研究は報告・概論の段階から更に細部に及ぶ実証的研究へ、そして、政治・法制・職官・思想等様々な分野からのアプローチへと展開しつつある。

今後、雲夢秦簡についての研究は更に重視されると思われる。竹簡そのものの解説から、更に政治史・思想史上に於ける位置付けへと、その研究は発展して行くのではなからうか。従って、これまでに発表された多くの関係資料を整理しておくことは、問題の所在を明らかにし、今後の研究動向を占う上で、是非とも必要な作業であると思われる。そこで、雲夢秦簡研究に関係する多くの資料を、以下に分類整理してみることにする。

なお、収録文献は一九八三年末現在のものである。

目次

- 一、発掘報告・概論
- 二、原文・図版・釈文・訳註
- 三、研究書・論文集
- 四、研究史概説・書評
- 五、社会・政治・思想
- 六、秦律・法制史
- 七、商鞅变法
- 八、職官
- 九、徭戍・奴隸制

十、経済

- 十一、軍事
- 十二、「語書」(「南郡守騰文書」)
- 十三、「編年記」(「大事記」)
- 十四、「為吏之道」
- 十五、「日書」
- 十六、地理・埋葬状況
- 十七、書道史
- 十八、その他

凡例

- 一、関係資料は便宜上、一〇十八の部門に分類し、各部門内の配列順序は、「中国」発表の資料、「日本」発表の資料の順とし、同一国内においては各々発表年度順とした。
- 一、各資料の掲載方法は、次の通りである。

① 研究書・論文集・テキスト等の場合

『書名』(編著者名、出版社名) 発表年

② 研究論文・報告等の場合

「論文名」(著者名) 『掲載雑誌・書名』 発表年

- 一、「中国」発表の資料は概ね簡体字で記されているが、ここではすべて日本の通行字体に改めておいた。

一、発掘報告・概論

〔中国〕

- 1、「雲夢睡虎地秦簡概述」（李勳）『文物』一九七六年五期
- 2、「参加雲夢秦墓発掘の幾点認識」（孝感地区亦工亦農考古短訓班學員張沢棟・潭春柏・聶浴青）『文物』一九七六年五期
- 3、「新生事物の強大生命力——記湖北孝感地区亦工亦農考古短期訓練班」（文物通訊員）『文物』一九七六年五期
- 4、「湖北雲夢睡虎地十一号秦墓發掘簡報」（孝感地区第二期亦工亦農文物考古訓練班）『文物』一九七六年六期
- 5、「湖北雲夢睡虎地十一座秦墓發掘簡報」（湖北孝感地区第二期亦工亦農文物考古訓練班）『文物』一九七六年九期
- 6、「湖北省雲夢県発掘十二座戦国末年至秦的墓葬、出土一批秦代的法律・文書竹簡」（『人民日报』一九七六年三月二十八日）
- 7、「秦代竹簡首次出土」（文物出版社）『人民画報』一九七六年七期
- 8、「雲夢県出土一批秦代竹簡」（『解放军画報』一九七六年七期）
- 9、「略論雲夢秦簡」（陳直）『西北大学学报』一九七七年

一期

- 10、「我国古代竹木簡發現出土情况」（舒学）『文物』一九七八年一期

期

- 11、「雲夢秦簡辨正」（黃盛璋）『考古学报』一九七九年一期
 - 12、「雲夢秦簡・簡介——附、对、為吏之道・及墓主喜職務性質的臆測」（邢義田）『食貨月刊』九卷四期、一九七九年
 - 13、「珍貴的雲夢秦簡」（舒之梅）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
 - 14、「湖北雲夢睡虎地秦漢墓發掘簡報」（雲夢県文物工作組）『考古』一九八一年一期
- 〔日本〕
- 1、「雲夢出土秦簡の基礎的研究」（掘毅）『史観』九七冊、一九七七年
 - 2、「中国古代史の時代区分問題と睡虎地出土の秦簡」（古賀登）『漢長安城と阡陌・県郷亭里制度』（雄山閣、なお同書にはこの他にも雲夢秦簡に関する考察が随所に見られる）一九七九年

二、原文・釈文・訳註

〔中国〕

- 1、「雲夢秦簡部分釈文」（雲夢秦簡整理小組等）『光明日

報』一九七六年四月六日

- 2、『雲夢秦簡積文(一)』(雲夢秦墓竹簡整理小組) 『文物』一九七六年六期
- 3、『雲夢秦簡積文(二)』(雲夢秦墓竹簡整理小組) 『文物』一九七六年七期
- 4、『雲夢秦簡積文(三)』(雲夢秦墓竹簡整理小組) 『文物』一九七六年八期
- 5、『睡虎地秦墓竹簡』(睡虎地秦墓竹簡整理小組、文物出版社、線裝本、写真・積文付) 一九七七年
- 6、『睡虎地秦墓竹簡』(睡虎地秦墓竹簡整理小組、文物出版社、右の普及版、積文・注釈・現代中国語訳・索引付、雲夢秦簡研究の基本的テキスト、但し写真なし) 一九七八年
- 7、『・城旦・解』(陳金生) 『文史』第六輯、一九七九年
- 8、『秦律・葆子・積義』(張政烺) 『文史』第九輯、一九八〇年
- 9、『雲夢睡虎地秦墓』(雲夢睡虎地秦墓編寫組、文物出版社、写真・積文付、従来未発表の「日書」を掲載) 一九八一年
- 10、『関于「秦律中的居」——《睡虎地秦墓竹簡》注釈質疑』(張銘新) 『考古』一九八一年一期
- 11、『雲夢秦簡《金布律》試釈』(王瑞明) 『中国歴史文献研究集刊』(中国歴史文献研究会、岳麓書社) 第二集、

一九八一年

- 12、『《睡虎地秦墓竹簡》注釈商榷(一)』(裘錫圭) 『文史』第十三輯、一九八二年
 - 13、『《睡虎地秦墓竹簡》注釈商榷(二)』(裘錫圭) 『文史』第十三輯、一九八二年
 - 14、『秦田律考釈』(田宜超・劉釗) 『考古』一九八三年六期
- 〔日本〕
- 1、『湖北睡虎地秦墓竹簡』訳註初稿』(秦簡講読会) 中央大学大学院『論究』十卷一号、一九七八年
 - 2、『雲夢睡虎地秦墓竹簡』訳註初稿、承前』(秦簡講読会) 中央大学大学院『論究』十一卷一号、一九七九年
 - 3、『睡虎地秦墓竹簡』訳註初稿、承前3』(秦簡講読会) 中央大学大学院『論究』十二卷一号、一九八〇年
 - 4、『雲夢睡虎地秦墓竹簡』訳註初稿、承前4』(秦簡講読会) 中央大学大学院『論究』十三卷一号、一九八一年
 - 5、『雲夢睡虎地秦墓竹簡』訳註初稿、承前5』(秦簡講読会) 中央大学大学院『論究』十四卷一号、一九八二年
 - 6、『雲夢睡虎地秦墓竹簡』訳註初稿、承前6』(秦簡講読会) 中央大学大学院『論究』十五卷一号、一九八三年
- 三、研究書・論文集
- 〔中国〕

- 1、『雲夢秦簡初探』(高敏、河南人民出版社) 一九七九年
- 2、『雲夢秦簡研究』(中華書局編輯部編、中華書局、雲夢秦簡についての本格的研究論文十八本を収録) 一九八一年

- 3、『雲夢秦簡日書研究』(饒宗頤・曾憲通、中文大學出版社) 一九八二年

- 4、『簡牘學報』第十期(秦簡研究專号) 一九八二年

四、研究史概説・書評

〔中国〕

- 1、『雲夢秦簡与秦漢史研究——以日本的研究成果為中心』(光明社)『食貨月刊』十一卷三期、一九八一年
 - 2、『雲夢秦簡的發現与秦律研究』(劉海年)『法学研究』一九八二年一期
 - 3、『雲夢睡虎地秦墓』簡介(肖隆)『考古』一九八二年六期
 - 4、『睡虎地秦簡研究班与其研究專号』(馬先醒)『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 〔日本〕
- 1、『中国簡牘研究の現状』(大庭脩)『木簡研究』(木簡学会)創刊号、一九七九年
 - 2、『木簡』(大庭脩、学生社) 一九七九年
 - 3、『中国における雲夢秦簡研究の現状』(永田英正)『木

簡研究』(木簡学会) 二二号、一九八〇年

- 4、『雲夢秦簡に關係して』(大庭脩)東方書店『東方』二〇号、一九八二年

- 5、『出土文物による最近の秦漢史研究』(大庭脩)『中国歴史学会の新動向』(唐代史研究会編、刀水書房) 一九八二年

- 6、『第三一回國際アジア・北アフリカ人文科学會議(CISH AAN)参加記』(編輯委員会)『東洋史研究』第四二卷第三号、一九八三年

五、社会・政治・思想

〔中国〕

- 1、『秦始皇反復辟功績の歴史見証——讀最近出土の雲夢秦簡』(蒙默)『四川大学學報』一九七六年二期
- 2、『從雲夢秦簡看秦代的反復辟鬭爭』(龍興堯)『北京大學學報』一九七六年四期
- 3、『秦の統一』(北京儀器廠考古研究所中国考古講話編寫組)『考古』一九七六年五期(《中国考古講話》選載)
- 4、『秦國法家路線の凱歌——讀雲夢出土秦簡札記』(田昌五)『文物』一九七六年六期
- 5、『秦律与秦朝的法家路線——讀雲夢出土的秦簡』(林甘泉)『文物』一九七六年七期
- 6、『雲夢秦簡——秦始皇鞏固新興地主階級專政的重要歷史

- 見証」(北京新華印刷廠活版車間工人理論組·中國科學院歷史研究所《中國史稿》編寫組)『文物』一九七六年八期
- 7、「古為今用，深入批鄧——孝感地區工農兵誦部分秦簡筆談」(孝感地區亦工亦農文物考古訓練班)『文物』一九七六年九期
- 8、「從雲夢秦簡看秦始皇的復辟鬥爭——兼駁攻擊秦始皇的反革命謬論」(華中師院京山分院政史系理論組)『湖北日報』一九七六年四月二十一日
- 9、「從雲夢秦簡看秦始皇鎮壓復辟勢力的必要性」(施正)『光明日報』一九七六年四月二十九日
- 10、「從雲夢秦簡看秦代的階級變動」(湖北省化工廠工人理論組等)『光明日報』一九七六年八月十二日
- 11、「從雲夢秦簡看秦代社會的主要矛盾」(唐贊功)『歷史研究』一九七七年五期
- 12、「從雲夢秦簡看秦代的主要矛盾」(鄭爽)『武漢大學學報』一九七七年六期
- 13、「影射史學的一個黑標本——批《從雲夢秦簡看秦代的反復辟鬥爭》」(黃盛璋)『天津師院學報』一九七七年六期
- 14、「秦代社會的階級和階級關係——讀雲夢秦簡札記之一」(吳樹平)『文物』一九七七年七期
- 15、「秦漢·士伍·的身份與階級地位」(劉海年)『文物』一九七八年二期
- 16、「斥·四人幫·在秦代史上的反動謬論」(詹越)『考古』一九七八年三期
- 17、「從近年湖北出土的秦簡牘看地主階級對殘存奴隸制的政策」(舒之梅)『江漢歷史學叢刊』一九七九年一期
- 18、「睡虎地秦墓竹簡」的法家思想」(王煜)『中華文化復興月刊』十三卷一期，一九八〇年
- 19、「秦國封建社會各階級分析——讀《睡虎地秦墓竹簡》札記」(林劍鳴)『西北大學學報』一九八〇年二期
- 20、「戰國時期秦封建法制的發展——讀《睡虎地秦墓竹簡》札記」(崔春華)『遼寧大學學報』一九八〇年五期
- 21、「由新出簡牘所見秦漢社會」(許倬雲)『中央研究院歷史語言研究所集刊』五一本二分，一九八〇年
- 22、「試論秦的土地國有制」(宋敏)『求是學刊』一九八〇年四期
- 23、「從出土文物看春秋戰國間的社会變革」(林甘泉)『文物』一九八一年五期
- 24、「雲夢秦簡所反映的秦代社會階級狀況」(吳樹平)『雲夢秦簡研究』(中華書局)一九八一年
- 25、「從雲夢秦簡看秦代中央集權制的歷史作用」(王瑞明)『中國歷史文獻研究集刊』(中國歷史文獻研究会、岳麓書社)第三集，一九八二年
- 26、「秦在巴蜀地區民族政策試析——從雲夢秦簡中得到的啓

示」(羅開玉)『民族研究』一九八二年四期

〔日本〕

- 1、「秦の思想統制について——雲夢秦簡ノート」(町田三郎)九州大学『中国哲学論集』四、一九七八年
- 2、「秦漢の国家と農民」(重近啓樹)『歴史学研究』一九七九年別冊特集
- 3、「中国古代聚落の展開」(池田雄二)『歴史学研究』一九八一年別冊特集
- 4、「呂氏春秋上農篇蠹測——秦漢時代の社会編成」(渡辺信一郎)『京都府立大学学術報告』(人文)三三号、一九八一年
- 5、「睡虎地秦簡よりみた秦の家族と国家」(松崎つね子)『中国古代史研究第五』(中国古代史研究会、雄山閣出版)一九八二年
- 6、「雲夢秦簡と韓非子」(森田邦博)九州大学『中国哲学論集』九、一九八三年
- 7、「雲夢秦簡よりみた秦代の地方行政」(佐藤佑治)『中国史における社会と民衆——増淵龍夫先生退官記念論集』(汲古書院)一九八三年

六、秦律・法制史

〔中国〕

- 1、「《秦律》是新興地主階級反復辟的銳利武器」(吳樹

平)『文物』一九七六年六期

- 2、「論秦律的階級本質——讀雲夢秦律札記」(吳榮曾)『歷史研究』一九七七年五期
- 3、「從出土《秦律》看秦的奴隸制殘余」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
- 4、「《秦律》是地主階級压迫・剝削農民階級的工具」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
- 5、「從《秦律》的刑罰類別看地主階級法律的事實」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
- 6、「秦漢連坐制度試探」(陳自方)『北方論叢』一九七九年二期
- 7、「從雲夢秦簡看秦律的階級本質」(劉海年)『學術研究』一九七九年一期
- 8、「秦律的階級本質与基本内容」(游紹尹)『理論与实践』一九七九年一期
- 9、「從雲夢秦簡看秦代刑律及其階級本質」(黃賢俊)『西南政法学院学報』一九七九年二期
- 10、「秦法和秦人執法——讀《睡虎地秦墓竹簡》淺識」(陳抗生)『江漢論壇』一九七九年三期
- 11、「雲夢秦律簡論」(黃展岳)『考古学報』一九八〇年一期
- 12、「略論雲夢《秦律》的性質」(陳玉璋)『江淮論壇』一九八〇年一期

- 13、「從雲夢出土的竹簡看秦代的法律制度」（劉海年）『學習與探索』一九八〇年二期
- 14、「秦律叢考」（于豪亮）『文物集刊』二、一九八〇年
- 15、「秦律刑罰考析」（劉海年）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
- 16、「秦王朝關於少數民族的法律及其歷史作用」（于豪亮）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
- 17、「秦代法律制度初探」（林劍鳴）『法律史論叢』（中國法律史學會《法律史論叢》編委會、中國社會科學出版社）一、一九八一年
- 18、「漢律篇名新箋」（高恒）『法律史論叢』（中國法律史學會《法律史論叢》編委會、中國社會科學出版社）一、一九八一年
- 19、「秦朝的法律制度」（張晉藩·張希坡·曾憲義）『中國法制史』（張晉藩等、中國人民大學出版社）第一卷、第二編第二章第三節、一九八一年
- 20、「法律制度」（林劍鳴）『秦史稿』（林劍鳴、上海人民出版社）第九章四、一九八一年
- 21、「秦朝的法律制度」（肖永清）『中國法制史簡編』（肖永清、山西人民出版社）上、第二章第一節三、一九八一年
- 22、「西漢對法律的改革」（于豪亮）『中國史研究』一九八二年二期
- 23、「從睡虎地秦簡看秦代的刑罰類別」（湯蔓媛）『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 24、「秦漢五徒刑期」（張壽仁）『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 25、「秦代贖刑略考」（黃真真）『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 26、「秦簡中所見的耐刑」（陳慧琴）『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 27、「簡牘本秦律之律名·條款及其簡數」（馬先醒）『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 28、「睡虎地秦簡刑律文集錄」（馬先醒）『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 29、「『坐』與『連坐』」（馬先醒）『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 30、「秦律雜考」（馬先醒）『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 31、「秦朝的法律制度」（法學教材編輯部《中國法制史》編寫組）『中國法制史』（法學教材編輯部《中國法制史》編寫組、群衆出版社）第五章、一九八二年
- 32、「法律志」（馬非百）『秦集史』（馬非百、中華書局）下、一九八二年
- 33、「秦朝的法律制度」（游紹尹等）『中國政治法律制度簡史』（湖北人民出版社）第六章第四節、一九八三年

〔日本〕

- 1、「秦漢刑名攷——主として雲夢出土秦簡による」(堀毅)『早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊』第四集、一九七七年
 - 2、「雲夢出土竹書秦律の研究」(大庭脩)『関西大学文学論集』第二七卷第一号、一九七七年、及び『秦漢法制史の研究』(創文社)第二篇第一章、一九八二年
 - 3、「中国の律令制と農民支配」(堀毅一)『歴史学研究別冊特集七八年度大会報告』、一九七八年
 - 4、「晋秦始令の成立」(堀毅二)『東京大学東洋文化研究所』『東洋文化』第六〇号、一九八〇年
 - 5、「湖北睡虎地出土秦律の倉律をめぐって・その一」(太田幸男)『東京学芸大学紀要』第三部門第三一集、一九八〇年
 - 6、「湖北睡虎地出土秦律の倉律をめぐって・その二」(太田幸男)『東京学芸大学紀要』第三部門第三二集、一九八〇年
 - 7、「秦漢時代の『完』刑について——漢書刑法志解説への一試論」(若江賢三)『愛媛大学法文学部論集』文学科編一三、一九八〇年
 - 8、「雲夢睡虎地出土秦律の性格をめぐって」(江村治樹)『東洋史研究』第四〇巻第一号、一九八一年
 - 9、「賞について」(橋本由美)『中国古代史研究第五』(中国古代史研究会、雄山閣出版)一九八二年
 - 10、「漢代の七科謫とその起源」(堀毅二)『明治大学』『駿台史学』五七号、一九八二年
 - 11、「秦漢の勞役刑」(富谷至)『東方学報』京都五五冊、一九八三年
 - 12、「謀反——秦漢刑罰思想の展開」(富谷至)『東洋史研究』第四二巻第一号、一九八三年
- 七、商鞅变法
- (中国)
- 1、「商鞅《秦律》与雲夢出土《秦律》的区别和联系」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
 - (日本)
 - 1、「尽地力説・阡陌制補論——主として雲夢出土秦簡による」(古賀登)『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第二三巻、一九七七年
 - 2、「秦国の家族と商鞅の分異令」(佐竹靖彦)『史林』六三巻一号、一九八〇年
 - 3、「商鞅变法の再検討・補正」(太田幸男)『歴史学研究』四八三号、一九八〇年
- 八、職官
- (中国)
- 1、「番夫考——読雲夢秦簡札記」(鄭実)『文物』一九七

八年二期

- 2、「論《秦律》中の「嗇夫・一官」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
- 3、「從雲夢秦簡看秦的幾項制度」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
- 4、「有秩・非・嗇夫・辨——說雲夢秦簡札記兼與鄭夷同志商榷」(高敏)『文物』一九七九年三期
- 5、「雲夢秦簡所見職官述略」(于豪亮)『文史』第八輯、一九八〇年
- 6、「秦漢嗇夫考」(錢劍夫)『中國史研究』一九八〇年一期
- 7、「嗇夫・辨正——說雲夢秦簡札記」(高恒)『法學研究』一九八〇年三期
- 8、「秦簡中与職官有関的幾個問題」(高恒)『雲夢秦簡研究』(中華書局)一九八一年
- 9、「嗇夫初探」(裘錫圭)『雲夢秦簡研究』(中華書局)一九八一年
- 10、「秦漢時期的亭」(高敏)『雲夢秦簡研究』(中華書局)一九八一年
- 11、「略談秦的法官法吏制」(黃留珠)『西北大學學報』(哲社科學版)一九八一年一期
- 12、「秦國・小内・考」(羅開玉)『西北大學學報』(哲社科學版)一九八一年三期
- 13、「秦漢的上計和上計吏」(葛劍雄)『中華文史論叢』

一九八二年第二輯

- 14、「秦代法吏体系考略」(劉海年)『學習与探索』一九八二年二期
 - 15、「秦代的會計」(郭道揚)『中國會計史稿』(郭道揚、中國財政經濟出版社)上、第四章第一節、一九八二年
 - 16、「有関・嗇夫・的一些問題」(朱大昀)『秦漢史論叢』(中國秦漢史研究会編、陝西人民出版社)第二輯、一九八三年
- 〔日本〕
- 1、「『文無害』考——睡虎地秦墓竹簡を手がかりとして見た秦漢期の官吏登用法」(飯島和俊)『中央大学アジア史研究』第三号、一九七九年
 - 2、「睡虎地秦墓竹簡に見える大内と少内——秦の少府の成立をめぐる」(工藤元男)『史観』一〇五冊、一九八一年
 - 3、「戦國秦の都官——主として睡虎地秦墓竹簡による」(工藤元男)『東方学』六三輯、一九八一年
 - 4、「秦の内史——主として睡虎地秦墓竹簡による」(工藤元男)『史学雑誌』九〇巻三号、一九八一年
 - 5、「秦漢時代の嗇夫について——『漢書』「百官表」と雲夢秦簡による一考察」(堀毅)『史滴』三、一九八二年
- 九、徭戍・奴隸制

〔中国〕

- 1、「秦律中・隸臣妾・問題的探討——兼批四人幫的法家愛人民的謬論」（高恒）『文物』一九七七年七期
- 2、「關於秦時服役者年齡問題的探討」（高敏）『雲夢秦簡初探』（河南人民出版社）一九七九年
- 3、「農民階級是戍邊徭役的主要承擔者」（高敏）『雲夢秦簡初探』（河南人民出版社）一九七九年
- 4、「關於《秦律》中的・隸臣妾・問題質疑」（高敏）『雲夢秦簡初探』（河南人民出版社）一九七九年
- 5、「從雲夢秦簡看秦代的奴隸制」（李裕民）『中國考古學會第一次年會論文集』（中國考古學會編、文物出版社）一九七九年
- 6、「秦律中的徭・戍問題——讀雲夢秦簡札記」（高恒）『考古』一九八〇年六期
- 7、「隸臣妾・辨」（林劍鳴）『中國史研究』一九八〇年二期
- 8、「雲夢秦簡——奴隸制社會的新証」（宋敏）『東北師大學報』（哲學社會科學版）一九八〇年四期
- 9、「秦簡中的奴隸」（于豪亮）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
- 10、「秦簡中的私人奴隸問題」（高恒）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
- 11、「秦代租賦徭役制度初探」（黃今言）『秦漢史論叢』（中

國秦漢史研究会、陝西人民出版社）第一輯、一九八一年

- 12、「西漢適齡男子戍邊三日說質疑」（于豪亮）『考古』一九八二年四期
 - 13、「隸臣妾・是秦的官奴婢」（官長為・宋敏）『中國史研究』一九八二年一期
 - 14、「秦的奴隸制殘余與秦末農民起義——讀雲夢秦簡札記」（高敏）『中國農民戰爭史研究集刊』第二輯、一九八二年
 - 15、「雲夢出土秦簡與秦・漢初之徵兵適齡」（劉順達、周業溫訊）『簡牘學報』第十期、一九八二年
 - 16、「秦自商鞅變法後的租賦徭役制度」（張金光）『文史哲』一九八三年一期
 - 17、「秦國傳籍制考辨——讀雲夢秦簡札記」（羅開玉）『中國歷史文獻研究集刊』（中國歷史文獻研究会、岳麓書社）第三集、一九八三年
- 〔日本〕
- 1、「中国古代の家父長的家内奴隸制——在地首長・豪族との関連において」（好並隆司）『歴史学研究』四六二号、一九七八年
 - 2、「秦漢時代の勞役刑——ことに隸臣妾の刑期について」（若江賢三）『東洋史論』（東アジア史研究会）一号、一九八〇年
 - 3、「秦の隸屬身分とその起源——隸臣妾問題に寄せて」（初山明）『史林』六五卷六号、一九八二年

十、經濟

〔中國〕

- 1、「從秦簡看秦國商品貨幣關係發展狀況」（吳榮曾）『文物』一九七八年五期
- 2、「從雲夢秦簡看秦的土地制度」（高敏）『雲夢秦簡初探』（河南人民出版社）一九七九年
- 3、「關於布幣的三個問題——讀雲夢出土秦簡《金布律》札記」（趙德馨等）『社會科學戰線』一九八〇年四期
- 4、「秦的官府手工業」（吳榮曾）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
- 5、「雲夢秦簡所涉及土地所有形式問題初探」（唐費功）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
- 6、「秦代的封建土地所有制」（熊德基・王瑞明）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
- 7、「從睡虎地秦墓竹簡看秦代的農業經濟」（安作璋）『秦漢史論叢』（中國秦漢史研究会、陝西人民出版社）第一輯、一九八一年
- 8、「從竹簡《秦律》看秦代的經濟立法」（潘世憲）『內蒙古大學學報』一九八三年一期

〔日本〕

- 1、「秦漢期の水利法と在地農業経営」（鶴間正幸）『歴史学研究』一九八〇年別冊特集

十一、軍事

〔中國〕

- 2、「中國古代山沢論の再検討」（好並隆司）『佐藤博士還曆記念中國水利史論集』（國書刊行會）一九八一年
 - 3、「秦における青銅工業の一考察——工官を中心に」（角谷定俊）明治大學『駿台史學』五五号、一九八二年
- 1、「軍功爵制試探」（朱紹侯）『開封師院學報』（哲學社會科學）一九七八年一期
 - 2、「從雲夢秦簡看秦的賜爵制度」（高敏）『雲夢秦簡初探』（河南人民出版社）一九七九年
 - 3、「秦軍功爵制簡論」（朱紹侯）『河南師範大學報』一九七九年六月期
 - 4、「秦簡所反映的軍事制度」（于豪亮・李均明）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
 - 5、「試論秦代軍事制度」（熊德基）『秦漢史論叢』（中國秦漢史研究会、陝西人民出版社）第一輯、一九八一年

十二、「語書」（「南郡守騰文書」）

〔中國〕

- 1、「秦始皇時期反復辟鬪爭的歷史見証——談湖北雲夢出土的秦簡《南郡守騰的文書》」（鐘志誠）『華中師院學報』一九七六年二期

- 2、「《南郡守騰文書》与秦的法治路線」(石言)『歷史研究』一九七六年三期
 - 3、「南郡守騰文書·和秦的復辟開爭」(吉林大學考古專業紀南城開門辨學分隊)『考古』一九七六年五期
 - 4、「一篇反擊復辟派的戰鬪檄文——讀《南郡守騰文書》」(北京第二機床廠工人理論組歷史小組·法學研究所華志石)『考古』一九七六年五期
 - 5、「加強上層建築領域中的革命專政——從《南郡守騰文書》看秦始皇堅持反復辟開爭」(鄭夷)『光明日報』一九七六年五月十三日
 - 6、「南郡守騰的經歷及其發布《文書》的意義」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
 - 7、「積《南郡守騰文書》——讀雲夢秦簡札記」(熊鉄基)『中國史研究』一九七九年三期
 - 8、「秦簡語書論究」(吳福助)『簡牘學報』第十期,一九八二年
- 十三、「編年記」(「大事記」)
- 〔中國〕
- 1、「從雲夢秦簡《大事記》看秦統一六國和反復辟開爭」(上海市重型機械製造公司工人歷史研究小組)『文物』一九七六年七期
 - 2、「雲夢秦簡《大事記》簡述」(曉涵)『光明日報』一九七六年四月二十二日
- 3、「雲夢秦簡《編年記》初步研究」(黃盛璋)『考古學報』一九七七年一期
 - 4、「《大事記》的性質与作者質疑」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
 - 5、「秦簡《大事記》与《史記》」(高敏)『雲夢秦簡初探』(河南人民出版社)一九七九年
 - 6、「吏誰從軍·解——讀秦簡《編年記》札記」(熊克)『中國史研究』一九七九年三期
 - 7、「睡虎地秦簡《編年記》的作者及其思想傾向」(商慶夫)『文史哲』一九八〇年四期
 - 8、「讀雲夢秦簡《編年記》書後」(馬雍)『雲夢秦簡研究』(中華書局)一九八一年
 - 9、「睡虎地秦簡《編年記》考証」(韓連琪)『中華文史論叢』一九八一年第一輯
 - 10、「雲夢秦簡大事記集傳」(馬非百)『中國歷史文獻研究集刊』(中國歷史文獻研究会、岳麓書社)第二集,一九八一年
 - 11、「論雲夢《大事記》之史料價值」(鄭良樹)『竹簡帛書論文集』(中華書局)一九八二年
 - 12、「論雲夢《大事記》札記」(鄭良樹)『竹簡帛書論文集』(中華書局)一九八二年
- 〔日本〕

- 1、『雲夢秦簡『編年記』について』（町田三郎）『九州中国学会報』二二、一九七九年
 - 2、『睡虎地十一号秦墓竹簡『編年記』よりみた墓主『喜』について』（松崎つね子）『東洋学報』六一卷三・四号、一九八〇年
- 十四、「為吏之道」

〔中国〕

- 1、「秦簡《為吏之道》中所反映的儒法合流傾向」（高敏）『雲夢秦簡初探』（河南人民出版社）一九七九年
- 2、「從秦簡《為吏之道》看秦的・治吏・思想」（劉海年）『吉林大學社會科學論叢』一九七九年四期、及び『中國法律史論』（張晉藩、法律出版社）一九八二年
- 3、「秦簡《為吏之道》与秦的官僚政治」（張晉藩・張希坡・曾憲義）『中國法制史』（中國人民大學出版社）第一卷、第二編第二章第二節、一九八一年
- 4、「秦簡為吏之道在思想史上的意義」（蔣義斌『簡牘學報』第十期、一九八二年
- 5、「秦簡為吏之道之版式及其正附文問題」（張永成）『簡牘學報』第十期、一九八二年

十五、「日書」

〔中国〕

- 1、「秦簡《日書》記時記月諸問題」（于豪亮）『雲夢秦簡研究』（中華書局）一九八一年
 - 2、「楚歷・小考——對《楚月名初探》的管見」（平勢隆郎）『中山大學學報』一九八一年二期
 - 3、「雲夢秦簡日書研究」（饒宗頤・曾憲通、中文大學出版社）一九八二年
- 十六、地理・埋葬狀況

〔中国〕

- 1、「雲夢秦墓兩封家信中有關於歷史地理的問題」（黃盛璋）『文物』一九八〇年八期
 - 2、「秦漢之安陸并非新地域」（劉玉堂）『文物』一九八二年三期
 - 3、「秦始皇陵西側起背戶村秦刑徒墓」質疑」（孫英民）『文物』一九八二年十期
- 〔日本〕
- 1、「雲夢睡虎地某喜墓の秦律等法律文書副葬事情をめぐって」（古賀登）『史観』一〇〇冊、一九七九年
 - 2、「湖北雲夢睡虎地秦墓管見」（池田雄一）『中央大學文學部紀要』一〇〇号（史学科編二六）一九八一年
 - 3、「雲夢睡虎地秦漢墓被葬者の出自について」（間瀬収芳）『東洋史研究』第四一卷第二号、一九八二年

十七、書道史

- 〔中國〕
- 1、〔從近年出土文字史料看秦代書同文的基礎及其貢獻〕
〔陳紹棠〕『新亞書院學術年刊』一八、一九七六年
 - 2、〔從出土秦簡帛書看秦漢早期隸書〕〔吳白匄〕『文物』
一九七八年二期
 - 3、〔秦簡的古文字學考察〕〔李學勤〕『雲夢秦簡研究』
〔中華書局〕一九八一年
- 〔日本〕
- 1、〔秦・漢初の簡牘帛書の書体と隸書の成立〕〔浦野俊郎〕
『二松学舎大學論集』昭和五十四年度、一九七九年
 - 2、〔戰國・秦漢簡牘文字の変遷〕〔江村治樹〕『東方學報』
京都五五冊、一九八一年
- 十八、その他
- 〔中國〕
- 1、〔孝感地区工農兵読部分秦簡筆談〕〔孝感地区亦工亦農
文物考古訓練班〕『文物』一九七六年九期
 - 2、〔雲夢秦簡中所見的歷史新証举例〕〔馬非百〕『鄭州大
學學報』一九七八年二期
 - 3、〔雲夢秦墓牒記考釈〕〔傅振倫〕『社会科学戰線』一九
七八年四期
- 4、〔秦代的郵傳制度——讀雲夢秦簡札記〕〔熊鉄基〕『學
術研究』一九七九年三期
 - 5、〔・睡簡・雜辨〕〔陳抗生〕『中國歷史文獻研究集刊』
〔中國歷史文獻研究会、岳麓書社〕第一集、一九八〇年
 - 6、〔關於秦史若干問題的辨析〕〔黃灼耀〕『華南師院學報』
一九八〇年一期
 - 7、〔・南郡備警・說質疑〕〔晁福林〕『江漢論壇』一九八
〇年八期
 - 8、〔秦・道・考〕〔駢宇騫〕『文史』第九輯、一九八〇年
 - 9、〔秦簡与《墨子》城守各篇〕〔李學勤〕『雲夢秦簡研究』
〔中華書局〕一九八一年
 - 10、〔秦律・集人・音義〕〔張政烺〕『雲夢秦簡研究』〔中
華書局〕一九八一年
 - 11、〔《睡虎地秦墓竹簡》中的數詞和量詞〕〔曾仲珊〕『求
索』一九八一年二期
 - 12、〔關於秦國杜虎符之鑄造年代〕〔馬非百〕『史學月刊』
一九八一年一期
 - 13、〔就簡牘學觀點略論睡虎地秦簡(上)〕〔馬先醒〕『簡牘學
報』第十期、一九八二年
 - 14、〔睡虎地秦簡中的篇題及其位置〕〔馬先醒〕『簡牘學報』
第十期、一九八二年
 - 15、〔秦皇名諱及其在秦簡研究上之意義〕〔李紀祥〕『簡牘
學報』第十期、一九八二年

16、「秦簡隨筆二則」(張永成)『簡牘學報』第十期、一九

八二年

〔日本〕

1、「出土資料から見た秦代の文字」(饒宗頤)『東方學』

五四輯、一九七七年